

ふみびと

第308号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

一つの花が 咲くまでに

変化の中に

厳しい夏の暑さが落ちてきたと思ったら、あっという間に昼の時間が短くなり、毎日のように刺すような降り注ぐ日差しも秋の長雨に遮られ、太陽が恋しくなるほど。

夏の暑さから解放されたのも束の間、今年もどうやら気付けば暑さに悩まされていた記憶も冷めやらないうちに、厳しい冬の寒さを思い出すことになりそうです。

少しずつ夏から秋へ、そして秋から冬へ移り変わ

わる季節を追いかけるように次の季節への準備をして、ほんのひと時の穏やかな気候を楽しんでいるような気がします。

厳しい夏の暑さや冬の寒さがあるからこそ感じられる春や秋の優しさ。そんな厳しさがなかったら、もしかしたらその優しさにも気付くことはなかったのかも知れません。詩人で画家でもある、星野富弘さんの作品の一つ。

『冬があり夏があり



昼と夜があり
晴れた日と

雨の日があつてひとつの花が咲くように悲しみも苦しみもあつて私が私になつてゆく』

穏やかな気候だったり、過ぎしやすしい天気であることは幸せなこと。できれば毎日が楽しい日であることを望むもの。でもそうでない日があるから今の自分がある。若くして手足の自由を失い、それでも口で筆を

一瞬に見える積み重ね

いつもの散歩道、いつもの曲がり角、いつもと同じ風景のはずなのに何かがちがう。金木犀の香りだ。立ち止まり、香りの出どころを探る。塀の向こうの茂みに可愛らしいオレンジ色の花が見え隠れしている。こんなに小さく控えめな花なのに、香りは周りを大きく包み、あたりの色まで変え

てしまうかのようだ。ついこの間、ここに金木犀があることにも気づかなかつたのに。まるで一晩で

ない。冬の間は休み、春夏に枝を伸ばし、そうやって秋にやつと花を咲かせている。誰かから見たら一瞬でも、たくさんの積み重ねがあつての豊かな香りなのだ。そう思うとなんだか励まされるようで、清々しい気持ちとともに、鼻腔の奥の残り香を味わいながら、また歩き出した。

風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。誰に届くかは風次第...。送り方は簡単。下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務所の返信筒にそのまま入れてください。お申し込みは11月1日のお手紙がある場合には、11月の発送は14日、28日の予定です。送りたいお手紙がある場合には、それぞれ3日前（11日、25日）までに事務局に到着することを、お近くの郵便局で確認の上ポストに投函してください。



お知らせ

11月の発送日

11月の発送は14日、28日の予定です。送りたいお手紙がある場合には、

それぞれ3日前（11日、25日）までに事務局に到着することを、お近くの郵便局で確認の上ポストに投函してください。

マイページ

文通村のマイページ（WEB上からログインできるページ）ではふみ友リスト、メモ機能、それぞれの更新期限表示、おすすめ村人、カード決済による自動更新など便利な機能が追加されています。ログインがまだの方はぜひ一度お試し下さい。

